

会議録

会議の名称	西東京市生涯学習推進計画策定懇談会第1回会議録
開催日時	平成20年6月24日 午後2時から4時まで
開催場所	西東京市役所保谷庁舎 3階第2会議室
出席者	(委員) 貝塚委員、金子委員、松嶋委員、三原委員、飯塚委員、水井委員、有馬委員、小田委員、川口委員 (欠席) 白倉委員 (事務局) 波方社会教育課長、小関社会教育課長補佐、石崎社会教育係長、水野社会教育係主任
議題	1 座長・副座長の選出 2 懇談会の役割について 3 懇談会スケジュールについて 4 会議録の作成方法、会議の傍聴について 5 生涯学習をめぐる国、都、西東京市の動向について 6 西東京市生涯学習推進計画(平成16年度～平成20年度)実施状況について 7 生涯学習に関する市民意識調査について
会議資料の名称	資料1 西東京市生涯学習推進計画策定懇談会委員名簿 資料2 西東京市生涯学習推進計画策定懇談会設置要綱 資料3 西東京市生涯学習推進計画策定懇談会スケジュール(案) 資料4 西東京市生涯学習推進計画策定懇談会傍聴要綱(案) 資料5 生涯学習をめぐる国、都、西東京市の動向 資料6 西東京市生涯学習推進計画(平成16年度～平成20年度)実施状況【概要版】 資料7 生涯学習に関する市民意識調査 調査項目表 資料8 行政におけるインターネット調査の状況について(案) 資料9 西東京市生涯学習推進計画書(平成16年度～平成20年度) 資料10 西東京市生涯学習推進計画書(平成16年度～平成20年度)概要版
記録方法	全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	

発言者名：
発言内容

社会教育課長補佐：開会の挨拶、本懇談会の意義
事務局：資料確認
委嘱状の交付
委員自己紹介

委員：現行の計画を策定するときは「策定委員会」であったが、懇談会は委員会とは仕組みが異なるのか。

事務局：現行計画は新たに策定する必要があったため、策定委員会を結成し、庁内調整会議が最終的な責任と進行管理などの役割を担う体制をとった。名前は異なるが同じ位置付けであり、庁内調整会議と懇談会で双方向にやりとりして計画を作り上げていきたい。なお、前回も市民と対話する組織を構成している。

事務局紹介

議事1 座長・副座長の選出

事務局：座長に立候補・推薦はあるか。

委員：事務局に一任でよい。

委員：貝塚委員を推薦する。 全員承認

事務局：副座長に立候補・推薦はあるか。

委員：川口委員にお願いしたい。 全員承認

座長・副座長：挨拶

座長：ざっくばらんに実質的な議論を効率よくすすめていきたい。

議事2 懇談会の役割について

事務局：懇談会の役割について説明【資料2、資料9】

座長：何か意見・質問はあるか。ないようなので、次の議事に進む。

議事3 懇談会スケジュールについて

事務局：スケジュール（案）について説明【資料3】

事務局：今回は7月10日に決めたかこれでよいか確認したい。また、基本的には月1回なので定例化していただきたい。

座長：スケジュール（案）について質問はあるか。 なし

座長：次回、7月10日で都合が悪い人はいるか。

副座長：7月10日なら欠席せざるをえない。

座長：他に都合が悪い人がいなければ、7月10日としたい。 了承

座長：各月第2木曜日の14時～16時に固定したいがどうか。

委員：よろしいと思う。決めておいたほうがよい。

座長：原則、各月第2木曜日の14時～16時とし、事情がある場合は日程調整するというのでよいか。 了承

議事4 会議録の作成方法、会議の傍聴について

事務局：要点記録としたい。（参考として、別の会議の議事録を配布）また、傍聴許可人数を最大5名としたい。

座長：参考のようなかたちでまとめることでよいか。 了承

座長：傍聴人数については現行計画の策定時はほとんど0だった。事務局案で問題ないと思うがどうか。 了承

議事5 生涯学習をめぐる国、都、西東京市の動向について

事務局：生涯学習をめぐる国、都、西東京市の動向について説明【資料5】

座長：国の指針や市の現況などを合わせて説明してもらったが、それらを含めて何か意見・質問はあるか。 なし

議事6 西東京市生涯学習推進計画（平成16年度～平成20年度）実施状況について

事務局：西東京市生涯学習推進計画（平成16年度～平成20年度）実施状況について説明【資料6、資料9】

座長：質問などはあるか。

委員：「実施」や「未実施」はわかりやすいが、「継続」はそれぞれの達成度などがあいまい。補足があれば説明をお願いしたい。

事務局：現段階では個別に提示することはできないが、このような整理の仕方をしていいる。次回以降、施策・事業を振り返る際に提示していきたい。

委員：「生涯学習センター」は現行計画の重点施策の1つだったと思うが「未実施」になっている理由は何か。

事務局：ハード（施設）面ではなく、ソフト面での問題。行政の大きな役目は情報提供で、その中心としてセンター構想があったが、市全体の情報提供システム構築の中で順番があとになったため、この5年間で実現できなかった。現在、引き続き要望している。

委員：資料9の54ページ以降に各部各課の施策事業一覧があるが、これと対応させたいので、次回に市の組織体制の一覧を示してほしい。

事務局：了解した。組織変更もあったため、新旧の対応等がわかるかたちで提示する。

議事7 生涯学習に関する市民意識調査について

事務局：生涯学習に関する市民意識調査について説明【資料7、資料8】

委員：インターネット調査とグループインタビュー調査ということだが、より幅広く意見を吸い上げるために、公共施設に用紙を設置しておく方法などを検討してほしい。

委員：高齢者はインターネット利用者が少ない。フォローする方法を検討したほうがよい。

委員：パブリックコメントがフォローと考えればよいか。あるいは、グループインタビューでフォローするつもりか。

事務局：パブリックコメントは計画案がある程度進んだ段階で実施するので調査のフォローとは考えていない。別の方法を検討する。グループインタビューについては高齢者が多い活動団体をピックアップすることを考えている。

委員：年齢層も考慮して団体を選ぶということか。

事務局：その予定である。

委員：モニターは業者のモニターなのか。もっと増やせないか。

事務局：調査会社のモニターを利用する。数は増やせない。

委員：現行計画策定時の調査はどのような方法だったか。

事務局：現行計画策定時の意識調査は郵送配布郵送回収だった。

委員：モニター以外にインターネット調査をかけることはできないか。

事務局：回答者管理の面で困難だと思われる。

委員：団塊の世代の団体はあるのか。また、グループインタビューは何団体くらいを予定しているのか。

事務局：男性を対象とした料理サークルなど総合計画でヒアリングしている団体もある。全部で10～15団体程度を考えている。

委員：グループインタビューは定量的な調査ではなく、定性的な調査か。

事務局：定性的な調査で、市への要望など具体的な内容をヒアリングする。

委員：グループインタビューの集計結果は、インターネット調査の補完ではなく、別の調査結果として集計することになるのか。

事務局：定量的に補完することはできない。あくまで別の調査であり、結果もそれぞれ集約する。

委員：インターネット調査とグループインタビューは同じ項目を聞くのか。

事務局：質問の仕方は異なるが、大きなくくりで考えると設問項目は同じになる。

委員：調査票案の「質問12」は学校教育についての設問だが、生涯学習計画にどのように活かすつもりなのか。

事務局：この設問は生涯学習とは趣旨を異にするが、今、教育基本計画も検討しており、そちらに反映させることを考えている。

事務局：高齢者などより幅広く意見を集約する方法については、予算上の制約はあるが工夫できないか検討して次回に提示したい。

座長：それでは次回により具体的な調査方法について提示していただきたい。

座長：その他に意見はあるか。 なし

事務局より

社会教育課長：挨拶